

2008年度 事業報告書

(2008年4月1日から2009年3月31日まで)

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

1 事業の成果

○事業概要

第6回助成先(2006年度募集分)の調査研究・研修の成果発表会を実施した。
 第7回助成先(2007年度募集分)については、その調査研究・研修活動の支援を行った。
 引き続き、第8回助成の公募・選考を行い、国内の助成枠として15件、700万円、アジア枠として5件、170万円、合計20件、870万円の助成を決定した。
 また、2006年度から委託研究として取り組んできた「地震と原発」研究、2007年度から実施している「柏崎刈羽・科学者の会」の研究活動を引き続き支援している。
 これらの活動を「高木基金だより」とメールマガジン、ホームページなどを通じて報告するとともに、市民科学のあり方等についての広報・普及活動を行ってきた。

○事業経過

2008年 5月25日 2008年度総会開催
 2008年 6月15日 基金だより No. 18 発行 <約2,500通>
 2008年 7月 5日 第5回助成の成果発表会を開催 <東京・南部労政会館 会議室にて：参加者60名>
 2008年 7月 6日 「ごみ処分場・ごみ処理施設問題 公開研究会」を開催 <主婦会館会議室にて：参加者30名>
 2008年 8月 9日 高木基金助成報告集 Vol.5(2008) 発行 <1,200部>
 2008年 9月30日 助成募集(アジア枠) 〆切
 2008年10月20日 高木基金だより NO. 19 発行 <約2,500通>
 2008年11月12日 高木基金セミナー「私たちはどこへむかうか—企業を変えよう、社会を変えよう！」を開催
 <地球環境パートナーシップオフィス会議室にて：参加者40名>
 2008年12月10日 助成募集(国内調査研究枠) 〆切
 2009年 1月25日 選考委員会開催
 2009年 3月 1日 第8回助成の公開プレゼンテーション開催 <渋谷区立恵比寿区民会館にて：参加者70名>
 同日の理事会で2009年度助成先を内定
 2009年 3月25日 高木基金だより NO. 20 発行 <約2,600通>

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者	受益対象者の範囲及び人数	支出額	
(1) 市民の科学を目指す日本国内及びアジアの個人・グループの研究・研修への助成	国内の個人・グループへの調査研究助成	2008/4/1~2009/3/31	主に国内	(1)-(2) 共通で専従2名	主に国内の個人・グループ	NPO/グループ 7団体	市民科学をめざす個人・グループへの調査研究助成金(一般応募)	3,300,000円
	国内の個人への研修奨励	2008/4/1~2009/3/31	主に国内		主に国内の個人	個人 3名	市民科学をめざす個人への研修奨励金	700,000円
	アジアの個人・グループへの調査研究助成	2008/4/1~2009/3/31	主にアジア		アジアの個人	5団体	市民科学をめざすアジアの個人・グループへの調査研究助成金	1,700,000円
	助成の公募・助成選考及び成果発表	2008/4/1~2009/3/31	国内		国内及びアジア	応募数 74件(個人・グループ計)	助成関係費	2,197,394円
(2) 市民科学の理念及び研究成果の普及	支援者及び一般への研究成果の普及・活動状況等の広報としての「高木基金だより」の発行	NO. 18 2008/6/15 NO. 19 2008/10/20 NO. 20 2009/3/25	国内		高木基金の支援者及び一般	各2,500~2,600名(発行部数)	広報活動費	1,405,746円
	助成先等の報告会・研究会及びセミナー等の開催	2008/7/6、11/12	都内		一般	7/6 30人 11/12 40人	普及活動費	302,906円
(3) 市民科学を目指す実践的な活動への助成	国内の個人・グループへの調査研究助成	2008/4/1~2009/3/31	国内		主に国内の個人・グループ	NPO/グループ 5団体	市民科学をめざす個人・グループへの調査研究助成金(継続応募)	3,000,000円
	委託研究	2008/4/1~2009/3/31	主に国内		一般	(広く社会一般に研究成果が還元される)	委託研究費	60,000円
(4) 自然エネルギー利用および省エネルギーの研究および普及活動への助成	今年度は実施せず							

(2) その他の事業 なし

以上

2008年度（特定非営利活動に係る事業）収支計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 収入の部		
1 会費収入	4,580,000	
2 事業収入	0	
3 補助金等収入	0	
4 寄付金収入	11,310,188	
5 運用収入	215,937	
6 その他収入	255,691	
当期収入合計		16,361,816
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 市民の科学を目指す日本国内及びアジアの個人・グループの研究・研修への助成		
助成金		
国内の個人・グループへの調査研究助成(一般応募)	3,300,000	
国内の個人への研修奨励	700,000	
アジアの個人・グループへの調査研究助成	1,700,000	
小計	5,700,000	
助成関係費		
公募関係費	88,842	
選考会費	731,018	
公開プレゼンテーション関係費	501,230	
成果報告会費	876,304	
小計	2,197,394	
(2) 市民科学の理念及び研究成果の普及		
広報・普及事業費		
広報活動費	1,405,746	
普及活動費	302,906	
小計	1,708,652	
(3) 市民科学を目指す実践的な活動への助成		
国内の個人・グループへの調査研究助成(継続応募)	3,000,000	
委託研究費	60,000	
小計	3,060,000	
(4) 自然エネルギー利用および省エネルギーの研究及び普及活動への助成 (今年度は具体化せず)	0	
小計	0	
事業費合計		12,666,046
2 管理費		
事務局人件費	4,101,751	
法定福利費	60,820	
消耗品費	47,655	
通信運搬費	181,017	
支払家賃	397,772	
印刷費	35,770	
旅費交通費	66,450	
外部委託費	0	
会議費	7,770	
支払手数料	159,654	
新聞図書費	46,800	
備品購入費	7,280	
租税公課	3,000	
雑費	13,934	
管理費合計		5,129,673
当期支出合計		17,795,719
当期収支差額		-1,433,903

2008年度（特定非営利活動に係る事業）貸借対照表

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目		金 額（単位：円）	
I 資産の部			
1	流動資産	現金	102,468
		普通預金 三菱東京UFJ	2,804,002
		三菱東京UFJ（基金口）	14,519,763
		りそな銀行	24,780
		郵便振替 00140-6-603393	1,240,427
		00160-4-758972	26,680
		国債 利付国債（5年）第63回	20,000,000
		未収入金 年度末寄付代わり金	1,605,639
		流動資産合計	40,323,759
2	固定資産	なし	0
		固定資産合計	0
		資産合計	40,323,759
II 負債の部			
1	流動負債	未払金 第8回助成金 未払分	7,500,000
		委託研究費 未払分	2,000,000
		過年度分未払い助成金	250,000
		カード支払未決済分	47,173
		2/27 理事会用資料コピー代 1,597円	
		2/27 公開プレゼン資料コピー代 41,580円	
		3/12 研修選考資料コピー代 3,996円	
		事務局住民税天引き過剰分	4,200
	預かり金	源泉所得税	
		2009年1月～3月給与支払分	21,403
		雇用保険料従業員負担分	
		2008年5月～2009年3月給与支払分	17,150
		流動負債合計	9,839,926
2	固定負債	なし	0
		固定負債合計	0
		負債合計	9,839,926
III 正味財産の部			
		前期正味財産	31,917,736
		当期正味財産増減額	-1,433,903
		正味財産合計	30,483,833
正味財産及び負債の合計			40,323,759

2008年度（特定非営利活動に係る事業）財産目録

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	
資産の部	
現金	102,468
普通預金 三菱東京UFJ	2,804,002
三菱東京UFJ (基金口)	14,519,763
りそな銀行	24,780
郵便振替 00140-6-603393	1,240,427
00160-4-758972	26,680
国債 利付国債(5年)第63回	20,000,000
未収入金 年度末寄付代わり金	1,605,639
流動資産合計	40,323,759
2 固定資産 なし	
資産合計	40,323,759
II 負債の部	
1 流動負債 未払金	
第8回助成金 未払分	7,500,000
委託研究費 未払分	2,000,000
過年度分未払い助成金	250,000
カード支払未決済分	47,173
2/27 理事会用資料コピー代 1,597円	
2/27 公開レシヨ資料コピー代 41,580円	
3/12 研修選考資料コピー代 3,996円	
事務局住民税天引き過剰分	4,200
預かり金 源泉所得税	
2009年1月~3月給与支払分	21,403
雇用保険料本人負担分	
2009年3月給与支払分	17,150
2 固定負債 なし	
負債合計	9,839,926
III 正味財産の部	
正味財産	30,483,833
正味財産及び負債の合計	40,323,759

2008年度（その他の事業）収支計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 収入の部		
その他の事業収入	0	
当期収入合計		0
II 支出の部		
1 事業費		
事業費	0	
事業費合計		0
2 管理費		
管理費合計	0	
管理費合計		0
当期支出合計		0
当期収支差額		0

2008年度（その他の事業）財産目録

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 資産の部		
資産	0	
資産合計		0
II 負債の部		
負債	0	
負債合計		0
III 正味財産の部		
正味財産		0
正味財産及び負債の合計		0

2008年度（その他の事業）貸借対照表

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金

科 目	金 額 (単位: 円)	
I 資産の部		
資産	0	
資産合計		0
II 負債の部		
負債	0	
負債合計		0
III 正味財産の部		
前記繰越正味財産	0	
当期正味財産増減額	0	
正味財産		0
正味財産及び負債の合計		0

2009年 4月 6日

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金
代表理事 河合 弘之 殿

会 計 監 査 報 告 書

当法人の2008年度（2008年4月1日から2009年3月31日）の会計について、
財産目録、貸借対照表、収支計算書等を精査した結果、適正なものである
ことを認めます。

特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金
監事 蝦名 順子

高木仁三郎市民科学基金 2008年度 助成金・委託研究費明細（兼 未払助成金明細）

金額単位：円

受付番号	テーマ	助成申込者名 または代表者名	グループ名	助成金額	2008年度末 未払助成金
【国内の個人・グループへの調査研究助成（一般応募）】				小計	3,300,000
81007	遺伝子組み換えナタネの拡散を防ぐための名古屋、四日市港周辺の調査研究と活動	伊澤 真一さん	遺伝子組み換え食品を考える中部の会	700,000	700,000
81009	ナノテクノロジーに関連する問題点と安全管理に関する調査研究	安間 武さん	化学物質問題市民研究会	500,000	500,000
81010	インドネシアへの原発輸出がもたらしうる影響調査	野川 未央さん	インドネシア民主化支援ネットワーク	400,000	400,000
81015	在沖米海兵隊のグアム移転がグアムと沖縄に与える影響の研究	山口 響さん	ピープルズ・プラン研究所	300,000	300,000
81024	沖縄島泡瀬干潟の生態系保全と持続可能な利用のための調査研究	前川 盛治さん	泡瀬干潟を守る連絡会	600,000	600,000
81031	原子力は温暖化対策にならないむしろ新規原子力は温暖化を悪化させる	アイリーン・美緒子・スミスさん	グリーン・アクション	500,000	500,000
81035	彩の国資源循環工場による環境汚染調査	加藤 晶子さん	彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば	300,000	300,000
【国内の個人・グループへの調査研究助成（継続応募）】				小計	3,000,000
86001	各地におけるVOC汚染物質の変動	森上 展安さん	VOC総合研究部会	500,000	500,000
86002	日の出町ゴミ焼却灰のエコセメント化工場の環境影響調査	濱田 光一さん	たまあじさいの会	500,000	500,000
86003	草の根市民による沖縄のジュゴン保護活動の構築	鈴木 雅子さん	北限のジュゴンを見守る会	400,000	400,000
86004	上関原発予定地長島の自然環境と生態系調査	高島 美登里さん	長島の自然を守る会	700,000	700,000
86005	地震動を考慮に入れた原発老朽化の検討	伴 英幸さん	原子力資料情報室	900,000	900,000
【国内の個人への研修奨励】				小計	700,000
81018	有明海再生を目指した諫早湾の保全生態学的研究	上杉 誠さん		200,000	200,000
81022	カリフォルニア州の再生可能エネルギー政策の研究	木村 啓二さん		200,000	200,000
81037	現代カンボジアにおける農村開発と稲作の変容－「食糧の安全保障」に着目して	秋保 さやかさん		300,000	300,000
【アジアの個人・グループへの調査研究助成】				小計	1,700,000
83001	廃棄水銀の最終保管をフィリピンで行う場合：最終保管施設運用リスクと国や自治体に求める政策の把握【フィリピン】	リチャード・グティエレスさん	バン・トクシックス(Ban Toxics!)	400,000	0
83004	鉱物資源の豊富な地域における大規模鉱山開発による環境社会影響調査【フィリピン】	クレメンテ・パウティスタJr.さん	カリカサン環境のための民衆ネットワーク(Kalikasan PNE)	500,000	200,000
83005	日本が融資するボホール灌漑事業フェーズ1(マリナオダム)が受益者農民の暮らしと環境に与えた影響に関する参加型調査【フィリピン】	マリア・イラ・パマツさん	ウィメンズ・ディベロップメント・センター(WDC)	400,000	200,000
83009	持続可能な暮らしのためのコミュニティフォレストの促進【インドネシア】	アリフ・ムナンダーさん	ワリヒ・ジャンビ(Walhi Jambi)	300,000	100,000
83010	緑化地区と都市貧困層の立ち退き政策における調査研究：北ジャカルタのベルシ・マヌシアウィ・ダン・ベルウィパワ公園の事例【インドネシア】	カリサ・カリドさん	インドネシア環境フォーラム(FoEインドネシア)	100,000	0
【過年度分未払い助成金】					
61012	メコン河支流におけるベトナムのダム開発と国境を越えたカンボジアへの環境社会影響に関する調査研究	後藤 歩	NPO法人メコン・ウォッチ	2006年度支出	250,000
助成金合計				8,700,000	7,750,000
【委託研究費】				0	2,000,000
【2005年度からの継続】「核燃料サイクル政策」への市民科学アプローチ		飯田 哲也	「核燃料サイクル政策」研究タスクチーム	2005年度支出	1,000,000
【2006年度からの継続】「地震と原発」研究		山口 幸夫	原子力資料情報室	2006年度支出	500,000
【2007年度からの継続】 柏崎刈羽原発の再稼働をめざす東京電力および政府の動きに対する批判的検証		井野 博満	「柏崎刈羽・科学者の会」	2007年度支出	500,000
委託研究費合計				0	2,000,000

1. 2008 年度事業報告および決算報告について

(1) 第 8 回助成（国内枠）

- ・ 第 8 回の助成募集・選考を行い、国内枠として 15 件 700 万円(昨年実績比 ▲185 万円)の助成を決定した。(助成先明細は別紙 p.8 ご参照)
- ・ 調査研究助成については、継続的に応募・助成をしているグループ等に、助成先が固定するのを避け、新規の助成先を積極的に発掘するという観点から、過去に 2 回以上の助成実績がある応募者(継続応募)と、それ以外の応募者(一般応募)を区別して選考を行うこととした。

【第 8 回助成(国内枠)の募集・助成結果】

募集	国内向け調査研究助成 …… 2008 年 11 月 1 日～12 月 10 日 国内向け研修奨励 …… 2008 年 4 月より随時																
応募	<table> <tr> <td>応募件数</td> <td>国内合計 57 件</td> <td>応募総額</td> <td>4,160 万円</td> </tr> <tr> <td>調査研究(一般応募)</td> <td>44 件</td> <td></td> <td>2,955 万円</td> </tr> <tr> <td>調査研究(継続応募)</td> <td>6 件</td> <td></td> <td>580 万円</td> </tr> <tr> <td>研修奨励</td> <td>7 件</td> <td></td> <td>625 万円</td> </tr> </table>	応募件数	国内合計 57 件	応募総額	4,160 万円	調査研究(一般応募)	44 件		2,955 万円	調査研究(継続応募)	6 件		580 万円	研修奨励	7 件		625 万円
応募件数	国内合計 57 件	応募総額	4,160 万円														
調査研究(一般応募)	44 件		2,955 万円														
調査研究(継続応募)	6 件		580 万円														
研修奨励	7 件		625 万円														
選考	2009 年 1 月 25 日、選考委員会にて書類選考を実施。 3 月 1 日に、渋谷区立恵比寿区民会館にて国内調査研究助成枠の公開プレゼンテーションを開催。その後の理事会で助成先を内定。																
助成決定	<table> <tr> <td></td> <td>第 8 回助成</td> <td>累 計</td> </tr> <tr> <td>国内向け調査研究助成</td> <td>12 件 630 万円</td> <td>96 件 5,620 万円</td> </tr> <tr> <td>国内向け研修奨励</td> <td>3 件 70 万円</td> <td>18 件 880 万円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15 件 700 万円</td> <td>114 件 6,500 万円</td> </tr> </table>		第 8 回助成	累 計	国内向け調査研究助成	12 件 630 万円	96 件 5,620 万円	国内向け研修奨励	3 件 70 万円	18 件 880 万円	合計	15 件 700 万円	114 件 6,500 万円				
	第 8 回助成	累 計															
国内向け調査研究助成	12 件 630 万円	96 件 5,620 万円															
国内向け研修奨励	3 件 70 万円	18 件 880 万円															
合計	15 件 700 万円	114 件 6,500 万円															

- ・ なお、研修奨励の助成先 3 件は、いずれも調査研究助成への応募の中で、若手の育成の観点から、研修奨励枠に振り替えて助成を決定したものの。研修奨励としての応募は、年間を通じて 7 件を受け付けたが、書類選考の段階ですべて見送りとなった。研修奨励については、これまでの実績を見直し、募集・選考・助成のあり方を再検討したい。

(2) 第 8 回助成（アジア枠）

- ・ 2008 年 6 月よりアジア担当プログラムオフィサーとして事務局スタッフを 1 名増員した。
- ・ 従来、アジア枠は通年で助成申込書を受けつけていたが、今年度は募集期間を設けて、国内外に広く呼びかけを行った。
- ・ 募集方法を変更する前に受け付けた 1 件に加えて、募集期間に 16 件（合計 17 件）の応募があった。
- ・ 選考委員による書類選考を経て、理事会で 5 件 170 万円の助成を決定した。

【第8回助成(アジア枠)の募集・助成結果】

募集	アジア枠 調査研究助成・研修奨励 …… 2008年4月1日～8月14日 (随時応募を受付) 8月15日～9月30日 (期間を定めて募集)			
応募	アジア枠	17件	応募総額	1,552万円
	内 調査研究	16件		1,402万円
	研修奨励	1件		150万円
選考	選考委員による書類選考後、2008年5月7日の書面理事会にて助成先1件を内定。 2008年11月18日～12月3日に選考委員による書類選考を実施。 2008年12月17日の理事会で助成先4件を内定。			
助成決定		第8回助成	累 計	
	アジア向け調査研究助成	5件 170万円	16件	825万円
	アジア向け研修奨励	なし	2件	115万円
	合計		18件	940万円

(3) 委託研究

・「地震と原発」研究

この委託研究は、2006年11月からの取り組みで、2008年10月までの2年間を予定していたが、その後の新潟県中越沖地震による柏崎刈羽原発の問題等が大きな焦点となっていることもあり、これと連携するかたちで、期間を延長することとした。

昨年9月に現代書館から出版された「まるで原発などないかのように」は、「地震と原発」研究および、これまでに助成してきた原発老朽化問題研究会の研究などの全体的に関わる成果物と言える。

今後も、原発等の原子力関係施設の耐震安全性は極めて重要なテーマであり、引き続き、高木基金の委託研究として位置づけていきたい。

・「柏崎刈羽・科学者の会」

新潟県中越沖地震で被災し、全7基が稼働を停止している柏崎刈羽原発については、東京電力が7号機の運転再開を目指し、政府の原子力安全・保安院などがこれを承認したため、現時点で、地元自治体の同意が焦点となっている。これに関する科学的・技術的な検証は、政府の審議会よりも、新潟県の技術委員会（およびその元に設置された小委員会）が重要な舞台となっており、「柏崎刈羽・科学者の会」としても、この小委員会での論点の分析、委員への問題提起、情報提供等に力を注いできた。

これまでに、重要な論点を解説したリーフレット No.1～3 および号外を作成し、関連する委員会や自治体関係者、地元住民等への配布を行い、東京電力がすすめようとしている運転再開に対し、科学的・技術的な立場から、精力的に批判的検証を行っている。社会的にも大きな注目を集めており、高木基金としても引き続き支援していきたい。

(4) 第6回助成の成果発表会の開催・助成報告集 vol.5(2008) の発行

- ・第6回助成先の助成期間が2008年3月で終了し、調査研究・研修成果のとりまとめを行った。
- ・7月5日(土)、南部労政会館会議室(東京都品川区)にて成果発表会を開催し、第6回助成先の内、13件の報告と質疑応答を行った。(参加者60名)
- ・調査研究・研修の完了報告書・会計報告書は、成果発表会の当日資料として配付するとともに、概要をホームページに掲載した。

- ・助成先の成果報告をまとめた「高木基金助成報告集 vol.5(2008)」を8月に発行し、会員・支援者等に送付するとともに、ホームページ等を通じて普及に努めた。

(5) 助成先の交流の促進、研究者ネットワークの構築

- ・上記の成果発表会の翌日（7月6日(日)）、主婦連合会会議室（東京都千代田区）にて、「ごみ処分場・ごみ処理施設問題 公開研究会」を開催し、過去の助成先および、現在助成研究を実施中の第7回助成先を招き、事例報告と意見交換を行った。（参加者30名）
- ・ごみ問題にテーマを絞ったことで、具体的な課題を抱える人同士の踏み込んだディスカッションが実現し、参加者からも好評が寄せられた。また、関連する問題に取り組むグループ相互の連携のきっかけ作りとしても効果的だった。
- ・高木基金として、各地の様々な課題のニーズに応えられるような研究者ネットワークを立ちあげられればという構想は、この間、たびたび話題になっており、まだ実現には、課題が多いが、こうした取り組みの中で、ネットワークの基盤は前進してきている。

(6) 選考委員の一般公募

- ・2007年度に引き続き、助成選考委員の一般公募を行った。募集人数1名に対し、5名の応募があり、理事会で選考の結果、1名(森千恵氏)に選考委員を委嘱することとした。

(7) 会員・組織基盤拡大の取り組み

- ・2008年度の会員・支援者数の状況は下記の通り。秋からの急激な景気後退の影響もあり、2007年度に比べて減少となった。とはいえ、過去数年を見ても、多くの方に着実な支援を頂いていることも事実であり、理事会・事務局として、特に大口寄付の開拓に努めていく必要がある。

	05年度	06年度	07年度	2008年度	前年比	備考
正会員	15人	18人	18人	18人	±0人	
維持会員	264人	258人	268人	256人	▲12人	
賛助会員	333人	305人	314人	293人	▲21人	
会員計	608人	580人	600人	563人	▲37人 (▲6.2%)	*1
寄付者	246人	120人	120人	130人	+10人	
市民研究サポート	364人	114人	78人	40人	▲38人	*2
支援者総数	854人	689人	720人	693人	▲27人 (▲3.8%)	
支援者の内訳						*3
新規	64人	33人	47人	40人	▲7人	
継続	557人	578人	517人	521人	+4人	
復活	233人	77人	156人	132人	▲24人	

*1 一部重複があるため合計が一致しない *2 会員・寄付者との重複を含む *3 内訳の「継続」は前年度も支援のあった方、「復活」は過去に支援の実績があり、前年度はなかった方。

- ・ニュースレター「高木基金だより」等の発行(約2,500部)については、2008年度同様、従来、年4回（基金だより3回+公開プレゼンの案内）とし、それにあわせて支援の呼びかけを行った。
- 2008年度は、「柏崎刈羽・科学者の会」のリーフレットも同封し、アピールに努めた。

(6) 2008年度決算について

(6) 2008 年度決算について

- ・支出面では、ほぼ予算に沿ったかたちとなったが、大口寄付の減少が大きく、全体の収支は 144 万円の赤字となった。（詳細は、2008 年度決算概況 (p.1)をご参照）
- ・2006 年に認定 N P O の承認を得てから、ある程度、大口の寄付が見込めるようになってきたが、今年度は、深刻な経済不況の影響を受け、大口寄付が減少し、これが全体の収支悪化に直結した。
一方、一般の会費・寄付は、若干減少はしたものの、着実に寄せられており、この厳しい経済環境の中でも、多くの方が貴重なご支援を寄せて下さっている状況である。
- ・支出では、助成金が予算比▲230 万円となったが、この要因としては、研修奨励の助成先が、調査研究からの振替の 3 件 70 万円のみにとどまったこと、調査研究助成についても、一件あたりの応募金額の上限を 200 万円から 100 万円に減額したこともあり、助成案件の規模がやや小さくなったことがあげられるが、大幅な収入の減少を受け、理事会においての助成選考も、やや厳しくせざるを得なかった。
- ・委託研究については、「柏崎刈羽・科学者の会」への追加の支援を予算に織り込んでいたが、市民研究サポートの収入状況を踏まえ、今期は実施しなかった。
- ・自然エネルギー・省エネルギーに関する助成も予算に計上していたが、これについても、財源となる企業等からの寄付が獲得できなかったことから、実施を見送った。今後、収入の目処がついた時点で、あらためて具体化に取り組みたい。

2006-08 年度の会費・寄付の内訳（市民研究サポートを含む）

	2006 年度	2007 年度	2008 年度	前年比
支援合計	22,107 千円	18,589 千円	15,890 千円	▲2,699 千円
内 一般の会費・寄付	6,607 千円	7,589 千円	7,284 千円	▲305 千円
[1 人あたり]	[9,589 円]	[10,540 円]	[10,512 円]	[▲28 円]
内 大口の寄付	15,500 千円	11,000 千円	8,606 千円	▲2,394 千円

ここでは、1 件で 50 万円以上の寄付を大口の寄付、それ以外を一般の会費・寄付として集計している。

2. 2009 年度事業計画及び収支予算について

(1) 第9回助成(国内枠およびアジア枠)

国内枠

- ・今年度の調査研究助成については、基本的に 2008 年度と同様のかたちで取り組みたい。ただし、収入の状況が厳しいため、助成予算は、昨年比▲100 万円としたい。(2008 年度に予算規模を 100 万円増額したが、これを以前の規模に戻すかたち)
- ・研修奨励については、募集・選考のあり方を見直し、「市民科学」を目指そうという熱意のある方を発掘し、応援する仕組みとして充実させたい。
- ・なお、自然エネルギー利用や省エネルギーの研究および普及に関する助成については、これに関する寄付獲得の目処がついたところで、助成を具体化していきたい。

アジア枠

- ・今年度は、第8回助成先の現地訪問を行い、調査研究の実情およびアジアにおける市民科学の現状把握を行いたい(5月予定)。
- ・現地訪問の結果を踏まえた上で、今後のアジア枠の中期方針(3年程度)を定め、高木基金アジア枠助成活動の強化を図るため、主に欧米の助成財団へのファンドレイズを行いたい(夏頃予定)。
- ・第9回助成は、前年度と同時期(8月中旬～9月末)に募集期間を設けて、国内外に広く応募を呼びかけたい。
- ・高木基金ウェブサイトの英語ページの充実を図る。

助 成 分 類	2009 年度予算	備 考
国内枠 調査研究助成(継続応募)	300 万円	前年予算比▲100 万円 前年実績比+100 万円 (継続・一般の予算配分 はあくまでも目安)
国内枠 調査研究助成(一般応募)	350 万円	
国内枠 研修奨励	150 万円	
アジア枠 調査研究助成・研修奨励	200 万円	
合 計	1,000 万円	前年予算比▲100 万円 前年実績比+130 万円

(2) 成果発表会の開催・「高木基金助成報告集」の発行

- ・例年同様、第7回助成の成果発表会の開催、助成報告集発行に取り組みたい。
なお、成果発表会については、第7回の助成件数が、国内のみで22件と多いため、東京での従来同様の成果発表会と、関西での発表会の2回に分けて実施する方向で準備したい。

(3) 助成先の交流の促進、研究者ネットワークの構築

- ・これまでの実績をふまえ、助成先と高木基金の理事・選考委員、支援者等の交流を促進する。さらに、様々な問題の現場で、調査研究に取り組む地域住民などから相談を受けた際に、関係する分野の専門家を紹介できるように、協力を得られる専門家のリストアップやネットワーク化を目指したい。

(4) 委託研究

- ・継続中の「柏崎刈羽・科学者の会」については、2008年度からの市民研究サポートを繰り越しており、また、2009年度も入金が見込まれることから、これにあわせて、委託研究金額を増額する方向で引き続き支援していきたい。
(市民研究サポート 50 万円、委託研究費 100 万円を予算に計上。)
- ・同じく「地震と原発」研究、核燃料サイクル政策研究については、一部委託研究費

の未払い分もあり、研究の進展にあわせて、引き続きフォローしていきたい。

(5) 選考委員の一般公募

- ・2007年度から実施している選考委員の一般公募は、選考および組織運営の活性化に寄与しており、今年度も従来同様に選考委員の一般公募(1名)を実施したい。

(6) 会員・組織基盤の拡大とそのための広報の強化

- ・従来からの会員・支援者への継続支援および、口座振替の利用を呼びかけ、新規支援者の開拓については、従来同様、地道な働きかけを続けていく。
このために、高木基金の案内パンフレットの新規作成、ウェブを活用した支援者拡大などにも取り組んでいきたい。
- ・この間の収支動向を見ても、一般の方からの支援は着実に寄せられていることから、大口の支援に絞った働きかけが重要となっている。理事会・事務局として、支援の開拓に努めたい。

(7) 2009年度予算

- ・今年度の予算は下表の通りとし、厳しい経済環境にはあるが単年度収支均衡を目指す。

(単位:千円)

		2007年度 実績	2008年度 実績	2009年度 予算	前年実績 対比	備考
収 入	会費収入	4,974	4,580	5,500	+920	
	寄付収入	11,100	10,935	13,500	+2,565	
	市民研究サポート	2,515	375	500	+125	*1
	支援小計	18,589	15,890	19,500	+3,610	
	内 一般の会費・寄付	7,589	7,284	8,000	+716	
	内 大口寄付	11,000	8,606	11,500	+2,894	
	自然エネルギー等への寄付	0	0	0	0	*2
	補助金など	0	0	500	+500	*3
	利息・雑収入など	286	471	300	▲171	
	収入合計	18,175	16,362	20,300	+3,938	
支 出	助成金	9,500	8,700	10,000	+1,300	
	委託研究費	1,000	60	1,000	+940	*1
	助成関係費	2,168	2,198	2,100	▲98	
	助成関係費(アジア)			400	+400	
	自然エネルギー等への助成	0	0	0	0	*2
	助成関係費(自然エネルギー等)	0	0	0	0	
	広報・普及事業費	1,319	1,708	1,700	▲8	
	管理費	4,629	5,130	5,100	▲30	
	内 人件費	3,788	4,102	4,150	+48	
支出合計	18,616	17,796	20,300	+2,504		
収支差額	259	▲1,434	±0	+3,060		
年度末正味財産(基金残高)	31,917	30,483	30,483	±0		

*1 市民研究サポートの状況に合わせて、委託研究費の増額を検討する。

*2 アジア枠について、海外の財団などからの補助金獲得を目指す。